

(「5 科学技術・学術における男女共同参画の推進」について。「日本女性科学者の会」会長の大倉多美子氏に依頼)

要望書

今日の女性研究者を取り巻く環境は、私ども昭和生まれの研究者にとりましては、夢のような対策が取られ、大きく改善してきており、現在も改善のための努力がなされておりますことに対しまして、大変感謝いたしております。しかし、それらの努力にもかかわらず、女性研究者の増加速度は緩やかで、このままでは202030の数値目標を達成できないどころか、女性研究者の質も低下してしまう事が懸念されます。特に女性研究者が少ない分野では、研究者の卵となるべき博士課程の学生も1割～2割となっており(内閣府広報誌「共同参画」による)、今後も急激な増加を望めない状況です。少ない現役の女性研究者の間では「202030の数と目標を達成するために数合わせをすることは、決して日本の研究のためにも、女性研究者のためにもならない」という意見で一致しており「本来優秀である女性のために、研究者教育に協力したい」という声が聞かれます。研究分野によっては、専門分野の文化や学会組織の体質が、女性研究者を増やすことを難しくしている場合もあり、それらの方針を変えることは、よほどの外部プレッシャーがないと進まないと思われれます。そこで我々「がん分野女性研究者ネットワーク(仮称)」では、まずはモデルプロジェクトとしてお考え頂きたく、以下のご提案を致します。特にがん分野に特化した提案ではございません。同様な研究分野が他にもあることは、内閣府広報誌が報告している通りです。

がん研究分野では、添付の【参考資料】で示すように、いずれにおいても女性の割合が1割程度で、当該研究領域において女性研究者が育っていないのは明白です(平成26年度がん研究ネットワーク【がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動】より)。また、現在2万人を超える日本癌学会の会員で女性は2000人足らず、しかも、大多数は学生や若い研究者で、30代40代では、その数はかなり減ります。評議委員(496名総数)でも、女性が40名弱という状況です。現在、日本癌学会において、積極多岐に女性研究者を増やす活動を展開すべく、準備を進めている状況です

【ご提案内容】

女性PI(principal investigator;研究室主宰者)によりPDの育成:現在がん研究分野においてPIを務める女性研究者に、ポスドク(または助教)といった若手女性研究者のポジションを支援し、女性研究者の育成を積極的に行う。

背景：男女共同参画におけるこれまでの取り組みにも拘らず、がん研究分野で女性研究者を増やそうという意識が無いこと、若い女性研究者の将来の展望を持たせるほどのロールモデルを現在の女性 PI が示すことができない(自分たちの体験があまりにも辛い、厳しいものであったため)ことが原因と思います。

モデルとしてのメリット：

- 1、女性 PI が女性研究者の問題を理解して、精神的にも支えながら研究者の育成ができる。
- 2、女性 PI にインセンティブを与える。それにより女性 PI の研究が発展すれば、女性 PI を増やすことにもつながる。何よりも現在苦しい状況にある女性 PI を支援することができる。
- 3、良い研究発展のロールモデルが示せれば、他の研究分野にも広げることができる。

【参考資料】がん研究ネットワークの現状
いずれも 10%前後にとどまっている。



